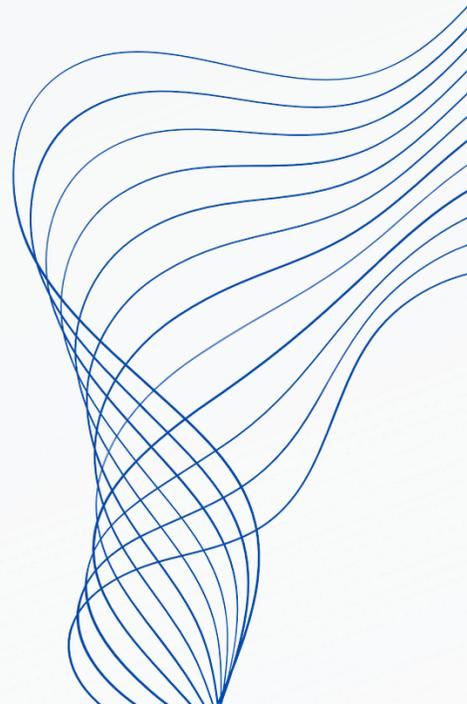




夏休み明けのリスタート!!

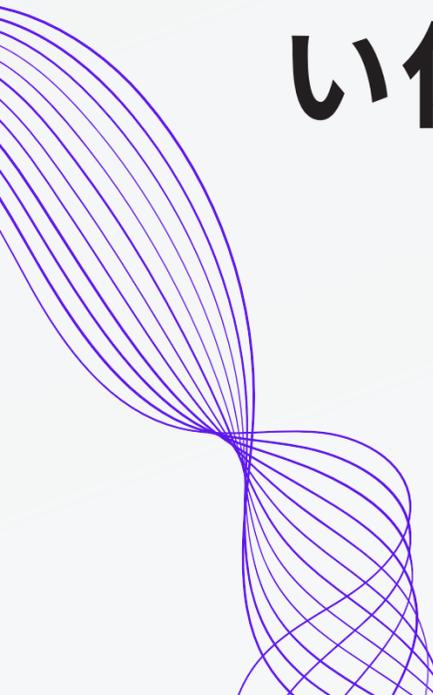
保護者も味方にする
学級経営術





皆さん、夏休みをどのように過ごしていますか？
夏休みは子どもだけではなく、教師にとっても
嬉しいものです。120%のリフレッシュをして、
次へのエネルギーを充電しましょう。

でも、せっかく子ども達に身についた事が、長
い休みで元に戻ってしまうこともありますね。





時には、「こんなことになるなら、夏休みなんかなければいい」と考えてしまいかもしれません。

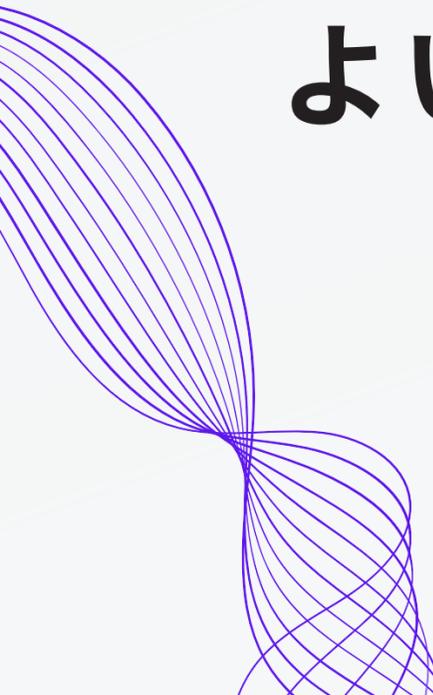
夏休み明けは、教師にそんなことを思わせるほど、心身ともにだらけてしまう子どももいるのです。





そこで、夏休み明けによく言われるのが、『**リスタート**』です。再出発をしっかりと行くと、その後の学級経営が安定するからです。

この『**リスタート**』、次の3つの視点で行うとよいでしょう



【目次】

- ① だらけてしまった子どもの **リスタート**
・ ・ ・ ・ ・ 【P 6 ~ 1 5】
- ② 一度身に付いたけれど忘れてしまった事の **リスタート**
・ ・ ・ ・ ・ 【P 1 6 ~ 1 9】
- ③ 1 学期に不十分だった部分の **リスタート**
・ ・ ・ ・ ・ 【P 2 0 ~ 2 7】

①だらけてしまった子どももの リスタート



～生活のリズムを取り戻す～

子ども達の中には、すっかり生活のリズムが崩れてしまっている子どもがいるのではないのでしょうか。そこで、初日に次のような取り組みをします。





***何時に寝て何時に起きるのかを自分で決める**

***実際の就寝時間と起床時間、朝食をとったかを
1週間記録する**

※PDFを準備しています!!





これを宿題の1つとして出し、家庭にも協力を依頼しましょう。

記録表を毎日提出させ、できていない子どもには一声かけましょう。

こうした取り組みをすることで、家庭と協力しながら子ども達の生活リズムを戻すことにも熱心なのだ和家庭に伝わり、**信頼**を得ることができるようでしょう。

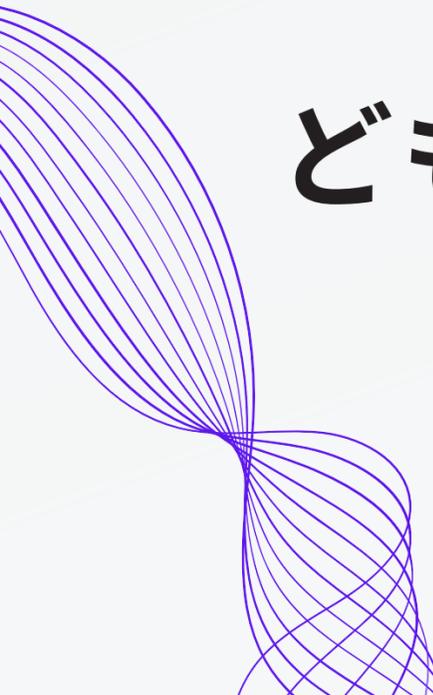




実は家庭だって、子どもの生活リズムを戻すことが大切だとは分かっているのです。

ですから、「早く寝なさい」くらいは言っているかもしれませんが、それでも、グタグタといつまでも起きている子どもがいるのです。

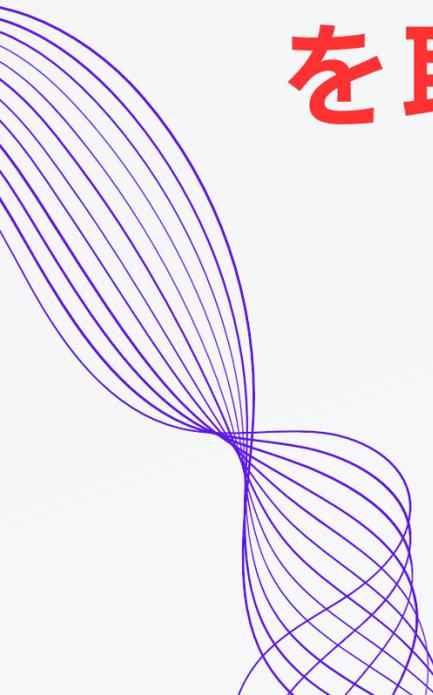
ですが、**先生の言ったことだと聞いてくれる子どももいます。**





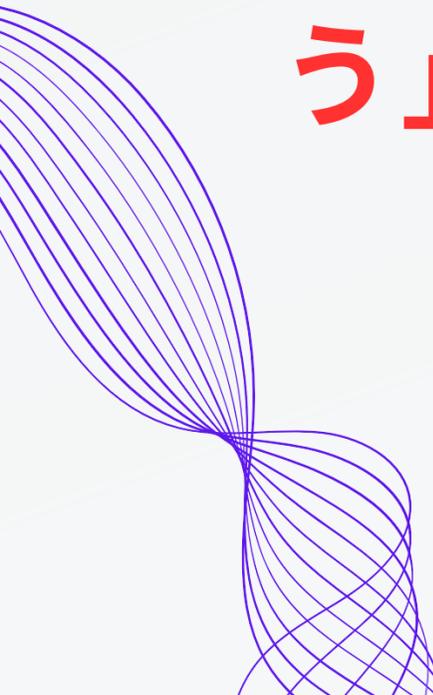
家庭に問題がある場合は、協力を得ることは難しいでしょうから、そういう子どもとは個別に面談し、睡眠の大切さを語りましょう。

そして、「**やれる範囲でいいから、生活リズムを取り戻そう**」と励ましましょう。





家庭に問題がある場合は、協力を得ることは難しいでしょうから、そういう子どもとは**個別に面談**し、睡眠の大切さを語りましょう。そして、**「やれる範囲でいいから、生活リズムを取り戻そう」**と励ましましょう。



～徐々に学校に慣れさせる～

先生方は、夏休み明けから全力で働けますか。
私は無理です!!やる気が出ません。夏休みの初日
に戻ってほしいという気持ちでいっぱいになります。
そんな子どもも結構いるのではないのでしょうか。





だから、いきなり全開で授業をするのではなく、少しずつ慣れさせていくようにしましょう。

例えば、学習ゲーム中心の授業をする、学級レクをするなどです。

特に初日と2日目くらいは、**やっぱり学校に来た方が楽しいと思ってもらえるような取り組みを**しましょう。





私が多用したのは**漢字クイズ**です。例えば、難しい漢字を出題しクイズとして取り組むと、楽しく国語の授業の導入ができます。

朝、あまり気分が乗らずに登校した子どもが「**今日、楽しかった**」と言って、帰宅すれば、保護者からの信頼が高まるはずです。



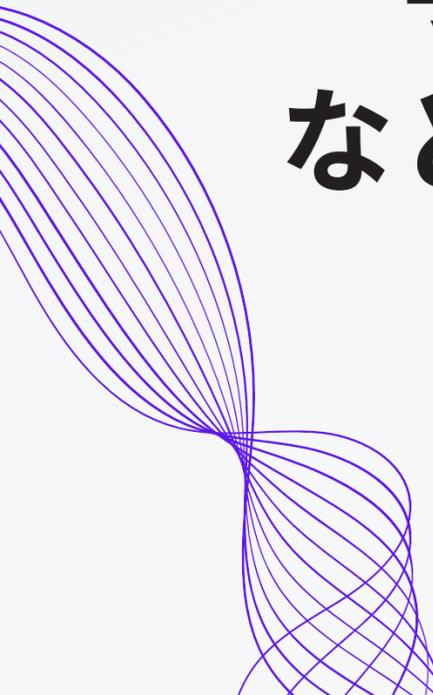
② 一度身に付いたけれど
忘れてしまった事の
リスタート





1日の生活の流れが、どの子どもにも身に付いているでしょうか。これまでやってきたから、休み明けもできると考えたら、秋頃に教室がぐちゃぐちゃになるかもしれません。

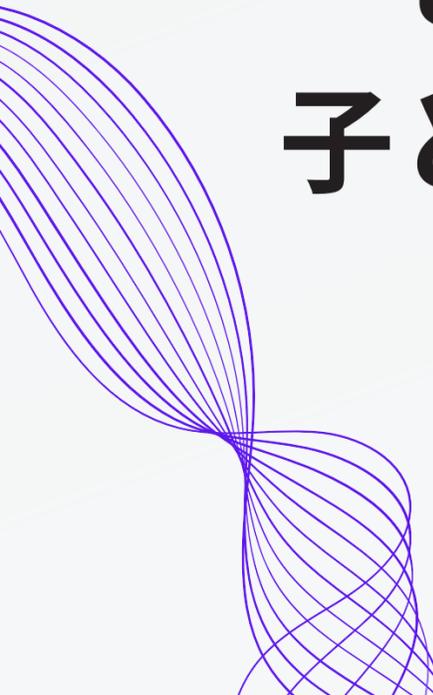
学級や学校のルールの確認。日直や給食、掃除などの当番活動。時間を守ことや整理整頓。





4月に『最初が肝心』と、詳細に計画を練った先生も多いことでしょう。その計画を振り返り、簡単で良いので、初日、2日目に必ず再確認しましょう。

とは言っても、全部ははじめから説明していたら子ども達も嫌気が指します。





まずは、**じっくりと子どもの様子を観察**しましょう。そして、**できていることを褒め**ましょう。休み明けにいきなり叱られるのは気分良くないので、**多少は多めに見ることも大切**です。

できていないことは、**やんわりと指摘**し、先生がやってみせましょう。そして、**同じようにやらせ**ます。そして、**できたら褒め**る。そうやって思い出させるのです。

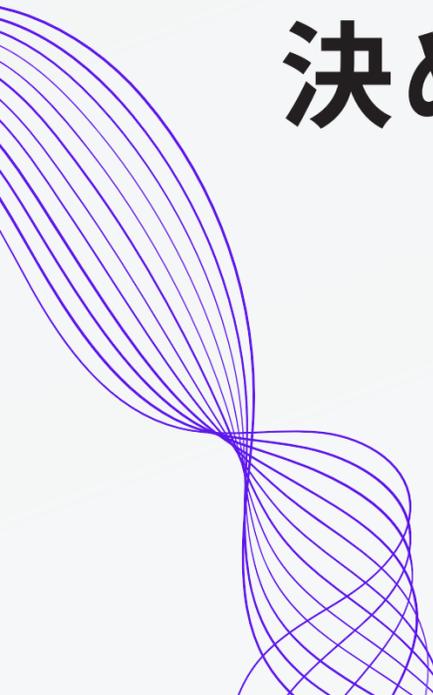


③ 1学期に不十分だった部分の リスタート





だいたい、4月にはあれもこれもと思いがちです。ですが、実際にはさほど多くのことはできません。そこで、**できていないこと・不十分なことから1つ選んで**、これだけはやろうということを決めます。





例えば、書くことの指導をやろうと思ったけれど、あまり取り組めなかったとします。

それならば、夏休み中に2学期に行う3回分くらいの授業計画を立てるのです。

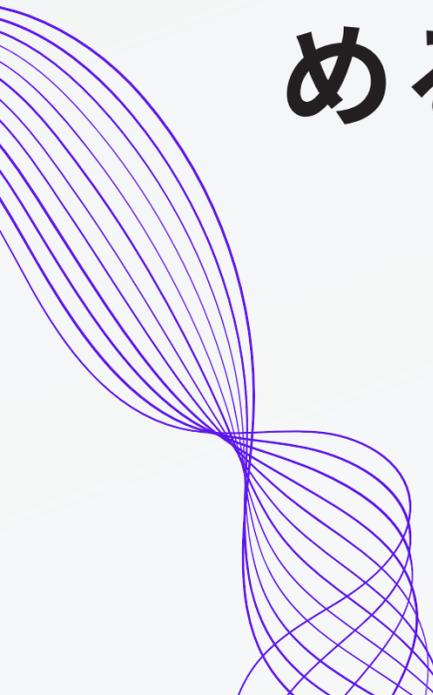
4月のスタートを大事にすることが推奨されますが、実は子ども達の実態が曖昧なので、その後の戦略には修正が必要なのです。





その点、夏休みならば、**子どもの実態を踏まえ
た手立て**を考えることができます。

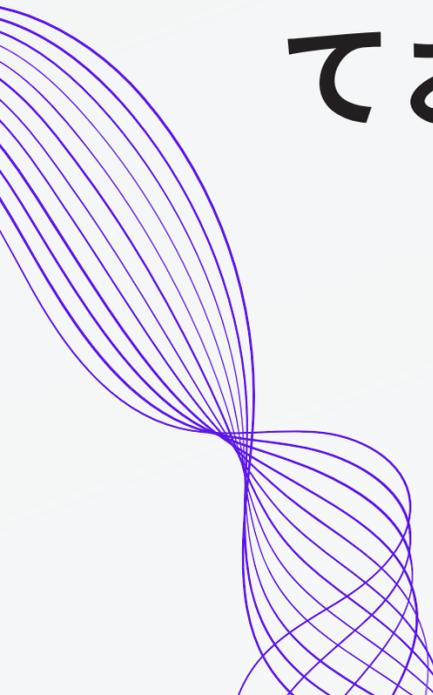
書くことに力を入れようと思ったけれど、想像以上に書くことが苦手な子どもが多い場合には、短文作りから始める必要があります。視写から始めるのも1つの方法です。





その準備を1学期の勤務中にやるのはなかなか難しいものです。

そこで、実態が十分に分かった夏休みに準備しておきます。





②と③のリスタートは、**すぐには効果が出ません**。しかし、このリスタートをすることで学級が安定し、子どもの学力が向上すれば、結局は**保護者からの信頼が増します**。

短期的・長期的、両方を狙ってのリスタートを
していきましょう。

